

# 『誰にとっても居心地の良い学校を目指して』

## 藤枝市立西益津中学校

### 1 ピア・サポート活動年間プログラム

平成 30 年度 ピア・サポート活動年間プログラム

藤枝市立西益津中学校

月別	ピア・サポート活動 ピア・サポートを中心に据えた行事	プログラム	職員研修
4月	<p>○1年生を迎える会</p> <p>○生徒会「大木プロジェクト」 誰にとっても居心地の良い学校にするためにできることを、委員会、学年、クラス単位で計画する。</p> <p>○団決め集会 縦割活動の意義を共有する</p>	<p>○「年度当初の学年集会」 ・エンカウンター的な活動</p> <p>○「ソーシャルスキルトレーニング1」(4月) ・各学年のピア・サポート担当と学年主任の企画による SST の実践</p>	<p>・年度当初の職員会議</p> <p>・担当組織の確認</p> <p>・ピア・サポート活動の1年間の流れの確認</p>
5月	<p>○各学年行事</p> <p>○ピア・サポート集会 ・ピア・サポートとは何か? ・ピア・サポートの視点に立った学級目標の発表 ・じゃんけん列車などの全校エンカウンター活動</p>	<p>○学級目標づくり ・ピア・サポートの視点に立った学級目標づくり</p> <p>○「ソーシャルスキルトレーニング2」(6月)</p>	<p>学年間、学級間でのどのようなピア・サポートや SST の実践が適切か、どのような取り組みが行われたかについて、日ごろから情報交換を図る。</p>
6月	<p>○各学年行事の交流発表会 ・縦割集団による行事発表会の実施</p> <p>○歌おう集会 ・協調性を育む合唱活動</p>	<p>○「体育大会に向けて」 ・3年生による種目指導 ・縦割集団での種目練習 ・誰もが参加できる競技種目の設定、ルールの確認</p> <p>○「音楽発表会に向けて」 ・パートごとの合唱練習 ・同学年、異学年で合唱練習</p>	
7月	○生徒会選挙		
8月			
9月	○体育大会 (縦割種目、応援合戦)		
10月	○音楽発表会 (各学級、学年における合唱づくり)	<p>二大行事では、誰にとっても居心地の良い学校の実現に向けてリーダー指導を行う。リーダーの姿を見届け、価値付けしていく。</p>	
11月	<p>○生徒会「羽ばたきプロジェクト」 ・活動状況や成果の振り返り ・視覚的に確認する掲示づくり</p> <p>○生徒大会 ・後期生徒会によるプロジェクトのスタート</p>	<p>○「ソーシャルスキルトレーニング3」(11月)</p> <p>○「ソーシャルスキルトレーニング4」(1月)</p> <p>○「感謝のメッセージを書こう」(2月) ・学級の仲間やお世話になった縦割集団、先生への感謝のメッセージ作成</p>	
12月	○全校レクリエーション		
1月	○生徒会プロジェクトの振り返り		
2月	○3年生を送る会		
3月	在校生と卒業生が感謝を伝え合う会		

1年：地域探訪  
2年：職場体験学習  
3年：修学旅行

取り組み分野、内容について重ならないように実践記録を蓄積するようにしている。

## 2 本校のピア・サポート活動の紹介

### (1) 生徒主体のピア・サポート【提言5】

本校では、代々「居心地の良い学校」を掲げ、その実現に向けて生徒会活動を行ってきた。昨年度から特別支援学級が新設されたこともあり、「誰にとっても居心地の良い学校」の実現に向け動き出し、2年が経とうとしている。

生徒会活動の方針を決めるとき、そして「プロジェクト」を立案する時の柱となっているのが、ピア・サポートの理念である。生徒会本部の提案を受けて、各専門委員会や学年がそれぞれの立場での活動を、①計画②実践③振り返り④次の活動に繋げることを重視した実践を行っている。

平成30年度後期の生徒会本部は、スローガンを「羽ばたき」と定めた。西中生一人一人が1枚の羽となり、みんなで大空に羽ばたいていこうという思いが込められている。仲間と協力し合うことが「誰にとっても居心地の良い学校」を創り上げると考え、ピア・サポートの理念のもと、生徒の手による居心地の良い西中を目指す活動が行われている。各委員会が企画したプロジェクトには次のようなものがある。



がある。

#### 【保健】「スリッパ揃え隊 2018」

トイレのスリッパの整頓を意識するために保健専門委員会が企画した。全校生徒がスリッパ揃え隊となり、自分の担当の日にスリッパを揃えた。放課後、保健専門委員がスリッパの整頓状況を確認し、スリッパがよく整頓されていたトイレを放送した。一週間ほど活動を行ったが、全校生徒でスリッパを揃える

ことで、学校全体のスリッパ整頓の意識が向上した。

#### 【代議員会】「メリハリはっきり化」

一分前着席の向上を目指すために、代議員会が企画した。各クラスの1分前着席の状態を調査し、1週間の達成率を出す。その達成率を放送し、1分前着席の意識向上を図った。

#### 【図書】学年別読書週間

本の貸し出し数増加を目指し、図書専門委員会が企画した。学年別に読書週間を設定し、指定の日ごとに、学級単位で本を借りにくるよう促した。学級ごとまとめて図書室を訪れる姿が多く見られ、本の貸し出し数が大幅に増加した。

### (2) ピア・サポートを共通理解する場【提言3】

#### ①ピア・サポート集会

5月に前期生徒会本部役員が全校生徒の前に立ち、「ピア・サポート」と「大木プロジェクト」についての説明を行った。また、平成22年度に制定された「西中いじめ根絶五箇条」の確認を行った。一人一人はかけがえない存在であり、代々の生徒会が「居心地の良い学校」を目指す姿勢はこの「五箇条」からスタートしていることが確認された。また、本年度も昨年度に引き続き、「学級目標」をピア・サポートの理念を柱につくることを確認し、ピア・サポート集会で各クラスの代議員が目標に込めた思いを発表した。



また、集会の後半では、全校生徒でバースデーチェーンを行った。各団の団長が指示役となり、バースデーチェーンを作る活動を通して、全校生徒の繋がりを大切にしていこうといった一体感を抱くこ



とができた。

## ② 団決め集会

1年間縦割り活動をしていく団を決定する集会。今年度は、くじを引く順番を「西中クイズ対抗戦」で決定した。各学級の代表者4名が一文字ごと担当し、4人で協力して一つの答えを作り上げた。生徒会本部が企画した西中クイズは大いに盛り上がった。単にくじを引いて終わりではなく、西中クイズを行うことで全校生徒の西中に関する理解が深まった。多くの生徒が楽しみながら、これからの縦割り活動に期待感を抱くことが出来た。



また、団が決まったあと、各色の団長が、ピア・サポートの視点に立った「団のこだわり」を発表した。あいさつや服装に関する事など、それぞれの団のこだわりを団員に伝えた。

## (3) ピア・サポート・行事の関わり【提言4】

2学期になると、体育大会に向けて、団ごとの活動が盛んになってくる。3年生が応援を作り、1、2年生を指導して、団の応援を形にしていく。3年生は下級生に対して、応援の注意点や各競技における作戦など、細かい作戦を立てて指導していく。時間や規律を守れない下級生に対しては厳しく指導する一方、応援の動きが上手にできない下級生に対しては優しく教える場面も多く見られる。3年生は夏休み前から準備を重ね、1、2年生がついてこられるように工夫して練習を進めた。自分達自身が試行錯誤を重ねてきたため、下級生に対しての声掛けもとても温かいものだった。

昨年度から特別支援学級が新設されたことや、1年



生の学級数が1クラス減ったことから、体育大会のルールや種目も、弾力的に変更する必要性があった。生徒会本部を中心に話し合いを重ね、誰もが主体的に参加できる体育大会を目指し、種目変更やルール作りに励んだ。課題もいくつか見られたが、「勝利より価値のあるもの」をスローガンとし、勝敗だけにこだわらず、体育大会を通じて「団結」や「絆」を感じ得ていた生徒が多く見られた。

## 3 本年度の成果と課題

ピア・サポートの考え方が西益津中学校全体に深く根付いてきている。学級目標や団のこだわりによりピア・サポートの視点を取り入れることで、年間を通じて「支え合い・助け合い」が意識できており、温かな雰囲気为学校全体に漂っている。

一方で、生徒の主体性を生かしたピア・サポート活動は、今後さらに拡大していかなければならない。まだまだ、教師の指示を待っている委員会や生徒も見受けられる。生徒の思いや考えを尊重し、自分たちの力で創り上げたり、解決したりする経験を積ませることで、自ら考え、動き出す生徒を育てていきたい。

## 4 来年度に向けて

来年度も継続して、ピア・サポート活動を推進していくと共に、生徒の主体性を育むために、年間の中で以下の3つの場を意図的に設定しようと考えている。

- ① 自己決定する場
- ② かかわり合う場
- ③ 自己実現・成長を実感する場

ピア・サポート活動としては、特に「かかわり合う場」の設定に力を入れていきたい。現時点でも、ソーシャルスキルトレーニングや体育大会、音楽発表会などの「かかわり合う場」が設定されているが、縦割りを有効活用しきれないという実態もある。縦割りの清掃指導やテスト計画の立て方の指導等、異年齢集団の活動を活発にしていくことが、本当の意味での「誰にとっても居心地の良い学校」に実現に繋がると考えることが出来る。以上のことに留意し、ピア・サポート活動のさらなる充実に努めていきたい。